



SUBARU

埼玉スバル自動車株式会社

「確かなクルマづくり」の姿勢と、
「安心と楽しさ」を提供するNo.1ディーラーを目指す—

航空機の技術を自動車に継承したスバル 大いなる遺産を次世代へ繋ぐ



埼玉スバル自動車株式会社
取締役社長

よしざわ ひろし
吉澤 裕 氏

音楽関係の仕事に従事した後、1979年（昭和54）埼玉スバル自動車株式会社に入社。2002年（平成14年）に2代目社長に就任。

2010年（平成22年）には、全国スバル自動車販売協会の会長に就任し、現在に至る。

趣味は、スポーツ観戦、演劇、音楽などの鑑賞。また、飛行機、自動車の愛好家でもある。尊敬する人は、歴史上の人物では「和を以って貴しとなす」と寛容の精神を唱えた聖徳太子。

スバルの製造元の富士重工業、その前身である中島飛行機は、嘗て、日本最大の航空機メーカーであり、偉大なる歴史は1世紀前の1917年（大正6）に遡ります。日本の航空機の歴史にその名を刻み、その志と技術は確実に後世に引き継がれています。

航空機製造をルーツとする自動車メーカーは、世界的に見ると珍しくありませんが、今もなお飛行機製造に携わっている自動車メーカーは希少な存在です。

航空機のエンジン技術を車に応用した唯一無二の水平対向エンジンを搭載したスバルに憧れる「スバリスト」たちの期待を裏切らず、誇りある志と技術を楯に、常に顧客のニーズと寄り添うことを理念に掲げる吉澤裕社長にお話を伺いました。

戦後の国民の足として大ヒットした「ラビット号」の販売からスタート

—はじめに創業の経緯をお聞かせいただけますか？

創業は1948年（昭和23）、創業者は私の父で、現会長の吉澤功です。創業する前は海軍の技術将校で、開戦の真珠湾攻撃から参加し、戦艦伊勢、巡洋艦羽黒に乗艦して2年間は戦地におりました。その後は、海軍機関学校、兵学校の教官を勤め、終戦の1945年

中島飛行機 全ての始まりはここから—

スバル車の歴史は、第二次世界大戦終戦まで独自の開発力と高い技術力で世界有数の航空機メーカーであった中島飛行機に端を発します。

埼玉スバルのさきたまガーデンには、その歴史と技術を永く後世に伝えていくために日本航空館を設置しています。

青少年に大空への憧れと夢を持って欲しいと考え、1958年（昭和33）に富士重工業で製造された国産初のジェット機T-1初鷹や日本初の軽飛行機でエアロスバルの名称で親しまれたFA-200の実機を展示しています。

さらに、建物内にはT-1のジェットエンジンやFA-300のプロペラ、中島飛行機の名機の模型などを展示しています。また、ラビットスクーターやモータースポーツで活躍したFJ-1600などの実車や水平対向エンジンのモデルなど航空機から自動車へ受け継がれるスバルの技術をご覧くださいことができます。



日本航空館（埼玉スバルさきたまガーデン内）

住所：行田市佐間1626

電話：048-556-7555

定休日：月曜・祝日

◆国道17号箕田橋交差点から約5km（車で約10分）

◆武蔵用水路沿い、さきたま古墳公園すぐそば

（昭和20）には日本初のジェット機「橘花」のエンジン「ネ20」の開発実験に携わっていました。

創業の経緯ですが、叔父が中島飛行機の技術者で零戦のエンジン「栄」の開発者であり、義兄も中島飛行機の技術者で「深山」、「連山」、「橘花」などの機体の主任設計士でした。その関係もあり、父も中島飛行機に入ろうかと考えていたようですが、時代背景もあり、海軍の学校に入り技術将校として軍人の道に進んだのです。

そして終戦を迎えるわけですが、しばらくは、南洋の島に残された兵隊の復員事業に加わり、その後、日産自動車に勤めていました。

その頃、富士重工業の役員をしていた叔父

から、「スクーターを造るから販売サービス会社をやらないか」との勧めがあったのです。その時から富士重工業とは67年の付き合いをさせて頂いております。

戦後、中島飛行機は富士重工業となりましたが、航空機の設計も製造も禁止となり、その代わりに造ったものがスクーターでした。



ラビットスクーター



■はじめの一步

埼玉スバル自動車
の歴史は、現会長 吉
澤功氏がさいたま市
(旧与野市)にて埼玉
ラビットスクーター

株式会社を設立したことから始まります。

1948年(昭和23)10月に埼玉ラビットスクーター株式会社を与野市に設立、当初は富士産業製ラビット号スクーターの販売からスタートしましたが、1958年(昭和33)にスバル360が発売されると、その4年後の1962年(昭和37)には埼玉スバル自動車株式会社と社名を変更し、名実共にスバルの特約店となります。

当時の国民の足といえば自転車でした。その自転車よりも機能性が高いスクーターの登場は、爆発的な人気を博し、国民の新しい足として定着していきました。

——最初は栃木だったのですね。埼玉の現在の場所に店を構えたのはいつ頃でしょうか？

両親は東京の出身でしたが、戦争の疎開地が栃木でしたので、最初は宇都宮で事業を始めました。それが1947年(昭和22)です。

翌年の1948年(昭和23)には埼玉の与野

(現さいたま市)、その後、東京高輪にも出店しました。現在は埼玉県だけでスバルのディーラーを運営しております。

航空機技術の応用で誕生したモノコック車 スバル360は、日本初の性能が満載

——スクーターの時代を経て、1958年(昭和33)、「てんとう虫」の愛称で親しまれた大ヒット商品の四輪車「スバル360」の登場ですね。

スバル360は、他社同タイプと比べると20～30パーセント軽く作られています。50年以上前の車ですが、日本初のモノコックボディ車で車体にはアルミや当時としては珍しいグラスファイバーを使用していました。車体が軽いと加速やブレーキ性能などの運動性能や燃費にも良い効果をもたらします。

また、スバル360は、日本初の四輪独立懸架の採用により、乗り心地とコーナーリング性能の向上を図っています。中島飛行機時代の航空機製造の思想と技術がスバル360に活かされているのです。

現代に受け継がれ、進化を続けるスバルの技術

モノコック ボディ

フレーム(骨組み)にボディを載せるフレーム構造に対して、モノコック構造は、フレームとボディを一体型にしたもので、フレーム構造に比べて軽量化しやすい、車内スペースが確保できるなどのメリットがあります。

剛性という点ではフレーム構造に劣りますが、卵の殻のように一体型ですので、ボディ全体で強度を保っています。最近の車種では、衝撃を吸収して車内の安全性を保つ工夫もなされています。



スバル360

水平対向 エンジン

水平対向エンジンは、クランクシャフトを中心に、水平かつ左右対称にピストンを配置する独特のレイアウトです。

この構造が生むメリットのひとつが振動の少なさ。一般的なエンジンのピストンが上下方向に往復するのに対し、水平対向エンジンは横方向に往復。ピストン同士が互いの慣性力を打ち消しあうため、振動を抑えることができるのです。

水平対向エンジンは、水平に配置する構造上、一般的なエンジンよりも全高が低く、「低重心」というアドバンテージを持っています。また、エンジンの全長が短いため非常に「コンパクト」

航空機エンジン技術を継承した 「水平対向エンジン」の登場

— そのスタイルから「てんとう虫」の愛称でも親しまれたスバル360は、日本初といわれる技術満載のヒット商品となりましたが、次なる展開をお聞かせ願えますか？

スバル360の次に登場したのは、独創的な水平対向エンジンと国産車としては画期的な前輪駆動方式を採用した小型車スバル1000です。航空機エンジンをルーツとする水平対向エンジンは、軽量コンパクトで、全長が短く重心も低いいため、水平対向エンジンを搭載



スバル1000

■イメージキャラクター 「FALCON-隼」に託された想い

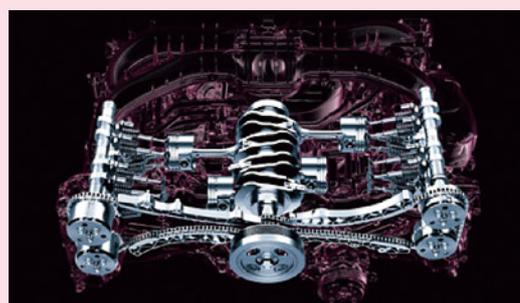


スバルの製造元である富士重工業の前身中島飛行機は、日本最大の航空機メーカーで多くの航空機を生み出しました。その中でも名機といわれたのが「隼（ハヤブサ）」です。操縦性、機動性に優れ、その美しい中にも力強い姿が多く、航空機ファンを魅了しました。

タカ科の隼は、スピードと敏捷性に優れ、身体は小さくても物凄いスピードで獲物（ターゲット）に飛びかかり捕獲（達成）する実行力、技術力を持った鳥です。タカは飢えても穂を摘まずという諺があるように、自分で獲った獲物しか食べない習性があり、節義を重んじる人の例えにも用いられます。

私たちの憧れである、大空を自由に飛ぶ姿は夢と希望を与えます。埼玉スバルならびに関連企業では、スバルゆかりの名称であり企業ポリシーである、スピード&スリム・チャレンジ精神・高度な技術・自由な気風などを備え持った隼をイメージキャラクターに設定しました。

ファルコン・グループは、埼玉スバルを中心に、幅広い分野において形成され、エクスクルージブな企業文化の確立を目指しています。



です。さらに、エンジンブロックの剛性が高いのでアルミ素材を多用することができ、非常に「軽量」に上げることが可能です。この「軽量・コンパクト・低重心」という資質が、水平対向エンジンというスポーツユニットの大きなアドバンテージとなっています。

運転支援システム アイサイト

アイサイトは、「ステレオカメラ」によって前方を常に監視しています。このカメラは人の目と同じように距離と形状を認識することが可能です。

クルマだけでなく、白線やガードレール、歩行者や自転車まで認識できます。その高精度な情報と自車の走行状況をもとに、ソフトウェアが必要な制御を判断。状況に合わせてVDC、エンジン、トランスミッション、メーター、ステアリングなどのユニットを適切に制御し、高度な運転支援を実現します。

アイサイトは運転支援システムとして2015年度のグッドデザイン金賞を受賞しました。



ステレオカメラ



街中での障害物の認識イメージ
※認識対象は高さ1m以上。

初代レガシィ



したスバル1000は素晴らしい運動性能を発揮しました。

現在、水平対向エンジンを搭載している車は、ポルシェとスバルのみです。

大いなる遺産「レガシィ」をもとに、
培われた技術を次世代に繋ぐ

— ラビットスクーター、スバル360、スバル1000と続きましたが、その後に登場するのが、現在の主力商品となるレガシィですね。

レガシィはスバルが今まで培ってきた集大成として1989年（平成元年）に登場しました。それまではどちらかという大衆車が中心のスバル車でしたが、日本を代表する高性能車を作ろうとして誕生したのがレガシィです。

航空機技術や水平対向エンジン、4WDなどの独自技術を凝縮した意味で、レガシィ、「大いなる遺産」と命名されました。現在のモデルで6代目となり、スバルの主力商品となっています。

※デビューの1989年（平成元）10万キロの世界速度記録223.345km/hを打ち立てました。

— レヴォーグという新車種を発売なさいましたが、新シリーズになるのですか？

レガシィ誕生から25周年を迎えた2014年（平成26）に新たにラインナップに加わりました。レガシィが世界的ヒットのグローバルカーとなり大型化してきました。日本のお客様からは、日本のジャストサイズの国内向けレガシィをとの要望に応じて開発された車がレヴォーグです。

レヴォーグ「LEVORG」は、「LEGACY」（遺産）＋「REVOLUTION」（変革）＋「TOURING」から作られた造語です。

※スバルの遺産を引き継ぎ、次世代に先駆けた変革により、新たなツーリングカーの時代を切り拓くという意味が込められています。

■埼玉スバル自動車 営業拠点



- ① 本社 ② 与野店 ③ 川越店 ④ 越谷店 ⑤ 川口店 ⑥ 所沢店 ⑦ 大宮店 ⑧ 朝霞店 ⑨ 本本店 ⑩ 春日部店 ⑪ 北本店 ⑫ 浦和店 ⑬ 東松山店 ⑭ 鶴ヶ島店 ⑮ 熊谷店 ⑯ 久喜店 ⑰ ポルシェセンター浦和 ⑱ ポルシェセンター狭山 ⑲ カースポット大宮 ⑳ カースポット羽生 ㉑ カースポット熊谷 ㉒ カースポット北本 ㉓ カースポット三郷 ㉔ カースポット岩槻 ㉕ カースポット秩父 ㉖ さいたまガーデン ㉗ 富士見 BP センター ㉘ 大宮 BP センター ㉙ 熊谷SS

社員教育・研修によるお客様満足度の向上

埼玉スバルは、1948年（昭和23）の設立以来、スバル車の販売店としてお客様第一主義を基本理念とし企業経営をおこなっています。安心と楽しさを追求した先進的で独創性のあるスバル車を多くのお客様にお届けし、長年にわたりご愛用いただいています。

この背景には、販売・サービスメンテナンスの両面からスタッフの資質向上のため、新人研修をはじめ、定期的な社員研修を実施するなど、日々の努力があります。

スバルでは、全国のセールス、メカニック、パーツを対象に資格制度を導入し、お客様対応や整備技術の向上を行っています。さらに、スバルチームとして、全スタッフのモチベーション向上のため「スバルセールスコンテスト」や「スバルサービス技術コンクール」を実施しています。「全国スバルサービス技術コンクール」では、毎回上位に入賞し、優勝も果たしています。また、世界大会へも出場し、優勝という輝かしい結果を残しているほか、「全国スバルセールスコンテスト」でも、優勝を果たすなどトップクラスの実績を残しています。

埼玉スバルでは、これからもスタッフ全員でスバル宣言にある通り、お客様に「安心と楽しさ」をご提案し、全力でお客様のカーライフのサポートを行えるように、誠意と真実の心で対応していくことが大事であると考えています。



技術・販売面から定期的な社員研修が実施されている。



技術コンクールの世界大会では優勝に輝く。



セールスコンテストでも見事優勝！



お客様との信頼関係が永遠のテーマ 目指すはお客様との信頼関係作り

—今まで、70年近く車と共に歩んで来ましたが、今後の計画をお聞かせいただけますか？

埼玉スバルは、2輪車、軽自動車、小型車、輸入車と、今振り返ると、日本のモータリゼーションと共に良いタイミングで発展出来たのだと思います。

現在、特に大きな計画はありませんが、お客様との信頼関係を築くこと、常に学習する風土を作ることです。

自動車ディーラーは、車の商談には多くの時間を要しませんが、販売後は整備や保険など、お客様とお会いする機会も増え、長い付き合いになります。

また、お客様も用途や趣味など個人個人異なりますし、お客様自身でも気が付かないような潜在的なニーズもあります。

私どもとしては、常にお客様の立場に立ち、5年先10年先のことも考慮して、最適な商品をお勧めできる知識や提案力を高めることが重要となって参りますし、何よりも、お客様との信頼関係を築くことが一番大切なことであると考えます。

その実現には教育が不可欠となります。外部講師による研修や社員間でも切磋琢磨して常に学習する環境づくりを心掛けています。

レヴォーグ



座右の銘は「他力本願」？

座右の銘は他力本願です。自動車ディーラーはメーカーをはじめ関係企業、業界団体、金融会社など多くの人の知識や技術の協力が無ければ成り立ちません。

社内においても、セールスもサービスも一人では仕事は出来ません。お互いに協力しなければ企業として目標を達成することは出来ません。そう言う意味の他力本願です。他の多くの方の協力を得てチームとして目標を達成しようと言うことです。

正確には「多力本願」ですね。それには、先ほどお話しました和を以って互いに認め合う寛容の精神が大切と考えます。

そして、皆で協力し合える環境を作っていくことが自分の責務であると心得て、これからも努めて参ります。

文化とスポーツを通じて社会貢献を目指す

埼玉スバルでは、社会貢献活動の一環としてさまざまな活動を行っています。

武蔵野銀行等と連携して子どもたちにプロの音楽家の演奏に触れる機会を提供したり、各種コンサートやコンクールへの支援を行っています。

また、Jrユースクラブ、スポーツ少年団やガールスカウトなどの少年少女の活動のサポートや、大宮アルディージャや埼玉ブロンコスなどプロスポーツチームのサポート企業としてオフィシャルカーの提供も行っています。

富士重工業のスバルの工場見学会や交通安全活動の一環として、自動車運転教習所でのイベントなど、安全運転の啓発活動を行っています。



埼玉スバル自動車株式会社 概要

創 業	1948年(昭和23)10月26日
資 本 金	4,900万円
売 上 高	247億円(平成26年度実績)
従 業 員	404名(平成27年4月1日現在)
本 社	〒338-8555 さいたま市中央区上落合8-4-11
電 話	048-852-0131
ホームページ	http://www.saitama-subaru.co.jp/top/
取 引 店	本店営業部